

2021年10月28日

2021年10~12月期 静岡県内主要産業四半期見通し調査

部品不足や原材料高が拡大 県内景気は停滞が続く

静岡経済研究所（理事長 馬瀬和人）では、9月中に実施した「静岡県内主要産業四半期見通し調査」の結果をとりまとめましたので、その内容をお知らせします。

現況

- 県内産業の現況（2021年7～9月期）は、『好調』の業種はなく、『順調』が「工作機械」「二輪車部品」の2業種、『普通』が「食品・飲料」「民生用電器部品」「住宅」「情報サービス」の4業種となった。
- 『低調』は「製紙」「自動車部品」「建設」「大型小売店」「自動車販売」「物流」「人材派遣」の7業種。『不調』は「観光・レジャー」「外食」の2業種となった。

今後の見通し

- 2021年10~12月期の見通しについては、引き続き『好調』の業種はなく、「二輪車部品」が一段階下降し『順調』が1業種、『普通』が5業種となる。
- 『低調』は7業種、『不調』は2業種で、いずれも前期と変わらない見通し。
- 製造業では、半導体不足に加えて、東南アジアなど海外で生産される部品不足の影響が拡大している。さらに、10月以降は多くの食品が値上げされるなど、原材料価格の高止まりが製造業だけでなく非製造業にも影響を及ぼし、県内産業景気は停滞が続く模様。
- ワクチン接種の進展により新型コロナウイルスの感染は比較的抑えられている。しかし、冬場にかけて再拡大する見方もあり、先行きは予断を許さない状況にある。

業 種	業 界 天 気	
	現況 (7-9月)	見通し (10-12月)
製 紙		→ 
食 品 ・ 飲 料		→ 
工 作 機 械		→ 
民 生 用 電 器 部 品		→ 
自 動 車 部 品		→ 
二 輪 車 部 品		→ 
建 設		→ 
住 宅		→ 
大 型 小 売 店		→ 
自 動 車 販 売		→ 
物 流		→ 
情 報 サ ー ビ ス		→ 
人 材 派 遣		→ 
観 光 ・ レ ジ ャ ー		→ 
外 食		→ 

※本件のお問合せ先 大石 彰男

部品不足や原材料高の影響が拡大、県内景気は停滞続く

業界景気の現況（2021年7～9月期）

県内産業の現況（2021年7～9月期）は、『好調』の業種はなく、『順調』が「工作機械」「二輪車部品」の2業種、『普通』が「食品・飲料」「民生用電器部品」「住宅」「情報サービス」の4業種、『低調』が「製紙」「自動車部品」「建設」「大型小売店」「自動車販売」「物流」「人材派遣」の7業種で、『不調』は「観光・レジャー」「外食」の2業種となった。

業界景気の見通し（2021年10～12月期）

10～12月期の見通しについては、引き続き『好調』の業種はなく、「二輪車部品」が一段階下降して、『順調』が1業種、『普通』が5業種となる。『低調』は7業種、『不調』は2業種でいずれも前期と変わらない見通し。製造業では、半導体不足に加えて、東南アジアなど海外で生産される部品不足の影響が拡大。さらに、10月以降は多くの食品が値上げされるなど、原材料価格の高止まりが製造業だけでなく非製造業にも影響を及ぼし、県内産業景気は停滞が続く模様。ワクチン接種の進展により新型コロナウイルスの感染は比較的抑えられているが、冬場にかけて再拡大する恐れもあり、先行きは予断を許さない状況にある。

製造業の動向をみると、内外需ともに好調な「**工作機械**」が『順調』のまま推移する。また、資材価格の高騰で収益の悪化が懸念されるものの需要は底堅い「**食品・飲料**」、住宅ローン減税が一旦終了したり木材価格が高値で推移するが受注は回復傾向にある「**住宅**」、コロナ禍でデジタル化需要が堅調な「**情報サービス**」が引き続き『普通』のまま推移する見通し。

このほか、半導体や海外部品の調達に制約が生じている「**二輪車部品**」が『順調』から『普通』に一段階下降する見通し。同じく東南アジアなどで生産される電子部品の調達が難航している「**民生用電器部品**」は『普通』のまま推移。今年前半から半導体不足やワイヤーハーネスなど部品不足の影響で完成車メーカーの減産が続く「**自動車部品**」は『低調』のまま推移する見通し。これに伴い、需要が堅調な「**自動車販売**」では納車遅れが続いており『低調』のまま推移。また、「**物流**」でも輸送用機器などの荷動きの鈍化が予想され『低調』のまま推移する見通しで、半導体などの部品不足が県内の幅広い業種に影響を及ぼす見通し。

一方、板紙は堅調だが業務用トイレ紙の低迷が長引く「**製紙**」、民間工事の受注は改善傾向だが、公共工事が前年並みの「**建設**」、多くの食料品で値上げが実施された影響を受ける「**大型小売店**」、製造業向け派遣需要が低迷している「**人材派遣**」は、引き続き『低調』のまま推移する見通し。また、前年に需要喚起策が実施された「**観光・レジャー**」、「**外食**」は前年の反動を受けて、ともに『不調』のまま推移する見込み。

2021年10～12月期 静岡県内主要産業四半期見通し調査一覧表

業種	業界天気		売上高 (前年同期比伸び率)	主要産業の見通し
	現況 (7-9月)	見通し (10-12月)		
製紙		→ 	→	業務用トイレ紙の回復は見込み難いが、板紙は堅調に推移
食品・飲料		→ 	→	資材価格の高騰などに伴う製造コストの増加で収益は悪化
工作機械		→ 	↗	内需、外需ともに着実に回復が続く見込み
民生用電器部品		→ 	↘	東南アジアからの電子部品調達が難航し、家庭用エアコンは減産
自動車部品		→ 	↘	輸入部品不足による完成車メーカーの減産で、前年を下回る
二輪車部品		→ 	→	需要は旺盛だが、生産が追いつかず前年並みで推移
建設		→ 	→	設備投資意欲が改善し、民間工事はやや上回る見通し
住宅		→ 	→	減税は一旦終了するが、先送りした需要の顕在化で前年並みで推移
大型小売店		→ 	↘	節約志向の顕在化で、スーパーの販売額は前年をやや下回る
自動車販売		→ 	↘	供給間に合わず、販売台数は引き続き低調に推移
物流		→ 	↘	輸送用機器で荷動きが鈍化、輸送量は前年をやや下回る
情報サービス		→ 	→	先行き不透明感はあるが、デジタル化需要が底堅く前年並み
人材派遣		→ 	↗	製造業向けは低迷、医療や介護分野では需要が増加
観光・レジャー		→ 	↘	Go To再開が決まらず、観光客の回復は11月から
外食		→ 	↘	売上高は、需要喚起策が実施された前年実績に届かない見通し

表の見方

業界天気				売上高	
	好調		低調	↗	非常に増加(+10%以上)
	順調		不調	↗	増加(+3~+9%)
	普通			→	横ばい(+2~▲2%)
				↘	減少(▲3~▲9%)
				↘	非常に減少(▲10%以上)

静岡県内主要産業四半期見通し調査「現況」推移

年次	2018年	2019年				2020年				2021年		
四半期	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ (今回調査)
対象月 (○は調査月)	10~12	1~3	4~6	7~9	10~12	1~3	4~6	7~9	10~12	1~3	4~6	7~9
全業種の平均階級値	2.90	2.90	3.15	2.90	2.65	2.30	1.67	1.67	1.87	2.47	2.53	2.40
好調：5												
順調：4												
普通：3												
低調：2												
不調：1												
業 種 数	好調	0	0	2	0	0	0	1	0	0	0	0
	順調	4	4	3	5	3	2	1	0	2	3	2
	普通	10	10	11	8	8	5	3	2	3	5	4
	低調	6	6	4	7	8	10	1	2	7	6	7
	不調	0	0	0	0	1	3	10	10	5	2	2

注1) 「業界景気の現況」および「業界景気の見通し」は、対象企業経営者が業界景気動向をどうみているかを調査したもの。調査は、毎年3、6、9、12月に実施。「業界景気の現況」とは、調査時点(9月調査であれば7~9月期)における業況、「業界景気の見通し」とは、調査時点における翌期(9月調査であれば10~12月期)の見通しを示す。

注2) 調査方法は、アンケート調査とヒアリング調査による。アンケート調査の概要は以下の通り。
 調査時点…2021年9月上旬
 回答企業…県内主要15業種(211社)

注3) 平均階級値は、好調：5、順調：4、普通：3、低調：2、不調：1とする、15業種の平均値。
 (2020年1~3月期までは20業種の平均値)

各業種および表の見方

製紙

【7-9月期】トイレ紙の生産量は、業務用の低迷が続く、特需の厚紙用紙は前年の生産量は、前年並みの生産量に回復した。タオの生産量は、前年並みの生産量に回復した。段原紙の生産量は、前年並みの生産量に回復した。加工食品向けや電気機器向けは堅調で、前年を上回った。

【10-12月期】トイレ紙の生産量は、業務用の回復に期待がかかるものの、大幅な増加は見込み難く、前年並みにとどまる見込み。前年並み、前年並み、業務用の回復基調が続き、加工食品向けや通販向けが堅調に推移し、前年と同水準で推移する見通し。

【10-12月期売上高】
前年同期比 7-9月期比

→ →

現況

見通し

国内紙・板紙生産量(前年比)

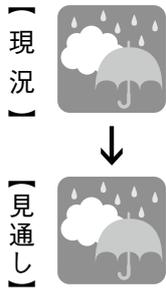
資料：経済産業省

操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製品価格	受注残
100~90%	非常に需要超過	非常に過少	非常に上昇	非常に上昇	カ月
89~80%	需要超過	過少	上昇	上昇	
79~70%	均衡	適正	横ばい	横ばい	
69~60%	供給超過	過多	下降	下降	
59%以下	非常に供給超過	非常に過多	非常に下降	非常に下降	

主要業種景況見通し

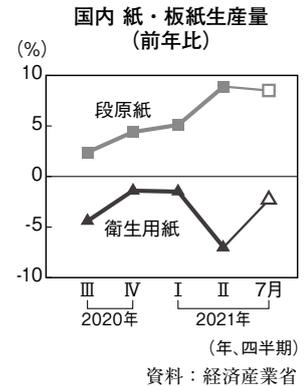
製紙

業務用トイレ紙の回復は見込み難いが、板紙は堅調に推移



【7-9月期】 トイレ紙の生産量は、業務用の低迷が続き、特需の反動減が生じた前年と同水準で推移した。タオル用紙は前年並み、ティッシュは前年を上回った。段原紙の生産量は、天候不順で青果用が伸び悩んだものの、加工食品向けや電気機器向けは堅調で、前年を上回った。

【10-12月期】 トイレ紙の生産量は、業務用の回復に期待がかかるものの、大幅な増加は見込み難く、前年並みにとどまる見通し。タオル用紙は需給が均衡し前年並み、ティッシュも前年並みの見込み。段原紙は、業務用の回復基調が続く、加工食品向けや通販向けが堅調に推移し、前年と同水準で推移する見通し。



【10-12月期売上高】

前年同期比 7-9月期比

→	→
---	---

操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製品価格	受注残
89~80%	均衡	適正	横ばい	横ばい	0.1~1.0ヵ月

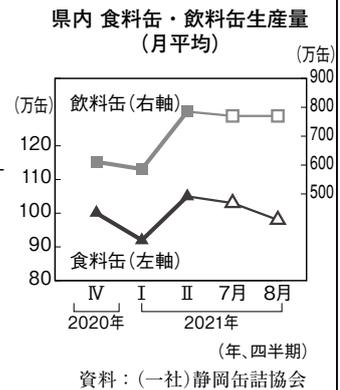
食品・飲料/製茶

資材価格の高騰などに伴う製造コストの増加で収益は悪化



【7-9月期】 食品・飲料：県内食料缶メーカーの売上高は前年を下回った。内食需要は堅調だったが、巣ごもり特需があった前年実績に及ばなかった。飲料缶類の生産量は、天候不順や外出自粛などで前年を下回った。製茶：製茶問屋の売上高は、前年を下回った模様。

【10-12月期】 食品・飲料：県内食料缶メーカーの売上高は、前年並みの見通し。資材価格の高騰に伴う製造コストの増加で収益の悪化が懸念される。飲料缶類の生産量は、前年並みで推移する見通し。外出自粛の緩和で小型缶を中心に需要の回復が期待される。製茶：製茶問屋の売上高は、問屋間売上の停滞で前年を下回る模様。



【10-12月期売上高】

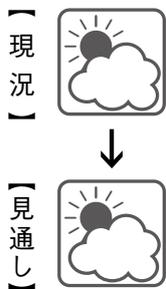
前年同期比 7-9月期比

→	→
---	---

操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製品価格	受注残
89~80%	均衡	適正	上昇	横ばい	0.1~1.0ヵ月

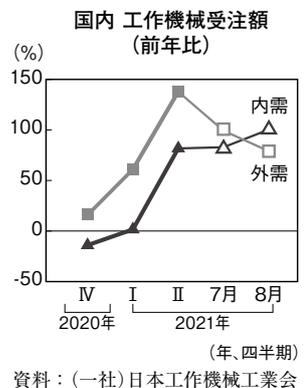
工作機械

内需、外需ともに着実に回復が続く見込み



【7-9月期】 全国および県内の受注額は、前年を大幅に上回った模様。メインの外需は、中国向けが高水準を維持、欧米向けもコロナで落ち込んだ前年を大きく上回った。外需に比べ回復が遅れていた内需も、主力の自動車産業などを中心に、幅広く受注が回復した。

【10-12月期】 全国および県内の受注額は、前年を大きく上回る見通し。外需は、中国向けに一服感が出ているが、欧米向けの回復もあり依然として好調に推移。内需も着実な回復が続くとみられる。ただし、部品・部材不足が不安材料となっており、前期からの大幅な受注増は見込み難い。



【10-12月期売上高】

前年同期比 7-9月期比

↗	→
---	---

操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製品価格	受注残
89~80%	均衡	適正	上昇	横ばい	1.0~16.0ヵ月

民生用電器部品

東南アジアからの電子部品調達が難航し、家庭用エアコンは減産

【現況】



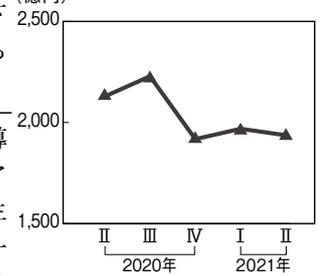
【見通し】



【7-9月期】県内の家庭用エアコンの出荷台数は、半導体（マイコン）供給不足の影響に加えて、天候不順で需要が低迷し、過去最高水準だった前年を▲20～30%下回った。冷蔵庫は、定額給付金支給で需要が押し上げられた前年を▲5%程度下回って推移した。

【10-12月期】県内の家庭用エアコンの出荷台数は、半導体不足の影響は解消に向かうとみられるものの、東南アジアから調達している複数の電子部品の調達に制約が生じつつあり、生産調整を強いられる可能性が高い。一方、業務用エアコンは、空気清浄機能を備えた新製品の投入で、前年をやや上回る見込み。

国内 家庭用電気機器出荷額
(月平均)



(年、四半期)
資料：経済産業省

【10-12月期売上高】

前年同期比 7-9月期比



操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製品価格	受注残
89～80%	均衡	適正	上昇	上昇	1.0～3.0ヵ月

自動車部品

輸入部品不足による完成車メーカーの減産で、前年を下回る

【現況】



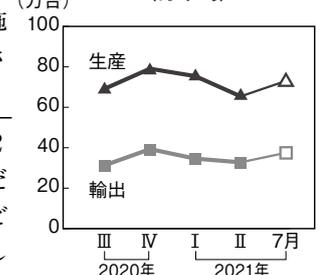
【見通し】



【7-9月期】全国の自動車生産台数は、前年比▲1割強下回った模様。半導体やワイヤーハーネスなどの部品不足が拡大し、すべての完成車メーカーで生産調整が実施された。県内部品メーカーの生産量も、その影響を大きく受けて前年実績を下回って推移したとみられる。

【10-12月期】全国の自動車生産台数は、前年比▲1～2割下回って推移する見通し。国内外ともに需要は堅調だが、半導体など部品不足の影響で、10月以降もほとんどの完成車メーカーで生産調整が予定されている。こうした中、県内部品メーカーの生産量は、登録車向け、軽関連ともに前年実績を下回る見込み。

国内 自動車生産・輸出台数
(月平均)



(年、四半期)
資料：(一社)日本自動車工業会

【10-12月期売上高】

前年同期比 7-9月期比



操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製品価格	受注残
89～80%	需要超過	適正	上昇	横ばい	0.1～2.5ヵ月

二輪車部品

需要は旺盛だが、生産が追いつかず前年並みで推移

【現況】



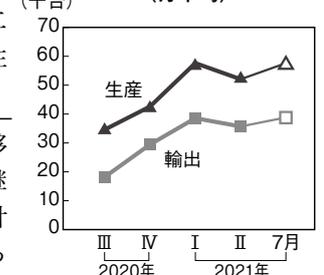
【見通し】



【7-9月期】全国の完成車生産台数は、コロナの影響で落ち込んでいた前年を+5割程度上回って推移した模様。半導体不足などによる生産調整もあったが、小型二輪を中心に需要が大きく伸び、県内部品メーカーの受注量も前年を大きく上回ったとみられる。

【10-12月期】全国の完成車生産台数は、前年並みで推移する見通し。レジャー用や通勤用としての需要拡大が継続しており、完成車メーカーでは前年を上回る生産を計画するが、半導体不足や海外部品の調達難が重しとなる模様。こうした状況下、県内部品メーカーの受注量は前年並みで推移する見込み。

国内 二輪車生産・輸出台数
(月平均)



(年、四半期)
資料：(一社)日本自動車工業会

【10-12月期売上高】

前年同期比 7-9月期比

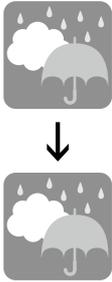


操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製品価格	受注残
89～80%	需要超過	適正	上昇	横ばい	1.0～1.5ヵ月

建設

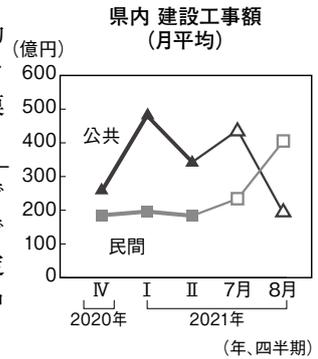
設備投資意欲が改善し、民間工事はやや上回る見通し

【現況】
↓
【見通し】



【7-9月期】県内の公共工事契約高は、前年をやや下回った模様。前年に大型の橋梁工事の契約があった反動で、低調に推移した。民間の工事費予定額は、製造業を中心に着工が増加したほか、飲食・宿泊業関連で大規模施設の建築があり、前年を上回ったとみられる。

【10-12月期】県内の公共工事契約高は、前年と同水準で推移する見通し。県や市町は引き続き緊縮財政を組んでいるが、国関係は前年を上回りそう。民間の工事費予定額は、前年をやや上回って推移する見通し。製造業を中心に設備投資意欲が改善しつつあり、受注もコロナ前と同水準に回復すると予想される。



【10-12月期売上高】

前年同期比 7-9月期比

→

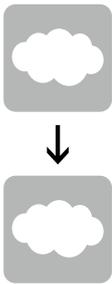
→

操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製品価格	受注残
89~80%	均衡	適正	上昇	横ばい	1.5~10.0ヵ月

住宅

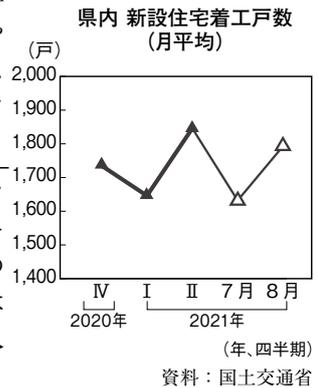
減税は終了するが、先送りした需要の顕在化で前年並みで推移

【現況】
↓
【見通し】



【7-9月期】県内の新設住宅着工戸数は、コロナの影響で低調だった前年水準をやや上回った模様。貸家はやや低調に推移したが、持家が堅調に推移した。大手ハウスメーカーの受注件数は、4月以降好調を維持しており、コロナ前と同水準にまで回復した。

【10-12月期】県内の新設住宅着工戸数は、消費増税とコロナで落ち込んだ前年の水準には届く見通し。住宅ローン減税が一旦終了し、木材価格が高値で推移するなどのマイナス材料はあるものの、住宅展示場への来訪者は戻ってきており、昨年来、新型コロナウイルスの影響で住宅購入を先送りした層の需要も顕在化してくる模様。



【10-12月期売上高】

前年同期比 7-9月期比

→

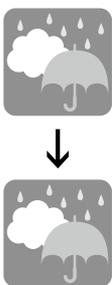
→

操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製品価格	受注残
89~80%	均衡	適正	上昇	上昇	1.0~8.2ヵ月

大型小売店

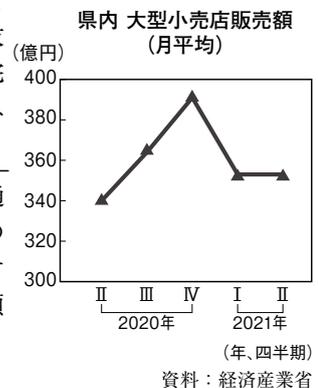
節約志向の顕在化で、スーパーの販売額は前年をやや下回る

【現況】
↓
【見通し】



【7-9月期】県内の総販売額は前年をやや下回った。百貨店は、緊急事態宣言の再発出で来客数が落ち込み、衣料品などが振るわなかった。一方、総合スーパーは、自宅で五輪を観戦する人々が酒類や総菜を購入する動きがみられ、主力の飲食料品を中心に前年水準を確保した。

【10-12月期】県内の総販売額は前年をやや下回る見通し。緊急事態宣言の解除後も、高額品の消費マインドの回復には時間を要するとみられ、百貨店は低調に推移する見込み。総合スーパーは、食用油や冷凍食品、菓子類など多くの食品の値上げが実施され、節約志向の強まりが予想されることから、前年をやや下回りそう。



【10-12月期売上高】

前年同期比 7-9月期比

→

→

操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製品価格	受注残
-	供給超過	-	上昇	上昇	-

自動車販売

供給間に合わず、販売台数は引き続き低調に推移

【現況】

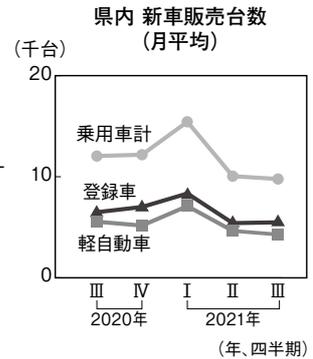


【見通し】



【7-9月期】県内の新車販売台数は、前年比▲18.8%と大きく減少した。部品調達難による減産の影響でメーカーからの供給が遅れ、7月には10カ月ぶりの減少に転じた。また、通常であれば期末セールで盛り上がる9月も前年比▲39.7%と、記録的な低水準となった。

【10-12月期】県内の新車販売台数は、前年比▲10%程度下回って推移する見通し。新型コロナが落ち着き、SUVタイプを中心に需要も堅調とみられるが、完成車メーカーからの供給が間に合わず、販売台数は引き続き低調に推移する見込み。半導体不足は、今後しばらく続くと思われる、当面は販売台数の上積みは見込めない模様。



資料：(一社)日本自動車販売協会連合会静岡県支部
(一社)全国軽自動車協会連合会静岡事務所

【10-12月期売上高】

前年同期比 7-9月期比



操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製品価格	受注残
89~80%	需要超過	過少	横ばい	横ばい	1.0~2.5ヵ月

物流

輸送用機器で荷動きが鈍化、輸送量は前年をやや下回る

【現況】

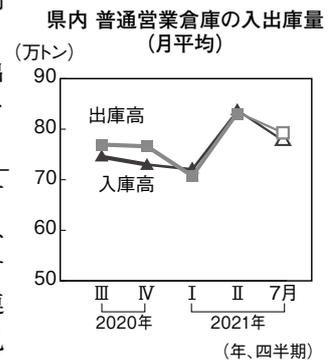


【見通し】



【7-9月期】県内のトラック輸送量は、消費関連は堅調だったが、ウエートの高い輸送用機器が低調に推移し、全体では前年水準をやや下回った模様。普通倉庫の入庫高は、主力の電気機械や飲料の荷動きが鈍く、前年を▲3%程度下回った模様。

【10-12月期】県内のトラック輸送量は、前年をやや下回って推移する見通し。消費関連は底堅く推移するとみられるが、輸送用機器や電気機械などの荷動きが鈍化する模様。普通倉庫の入庫高は、年末にかけて食品関連で安定した荷動きが見込まれ、前年水準を確保できる見通し。



資料：静岡県倉庫協会

【10-12月期売上高】

前年同期比 7-9月期比



操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製品価格	受注残
89~80%	均衡	—	上昇	横ばい	—

情報サービス

先行き不透明感はあるが、デジタル化需要が底堅く前年並み

【現況】

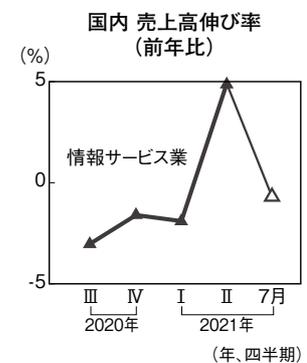


【見通し】



【7-9月期】全国および県内の売上高は、前年並みの水準で推移した模様。感染者数の増加を受け緊急事態宣言が発出されたが、開発中の案件に大きな影響はなかった様子。製造業や卸売・小売業、金融業、官公庁など、幅広く需要が回復した。

【10-12月期】全国および県内の売上高は、前年並みで推移する見通し。コロナ禍でIT投資の機運が高まり需要は底堅い。感染拡大の影響が長期化していることで、足元の業績悪化や先行き不透明感を理由に発注を躊躇するユーザー企業もみられるが、開発中の案件を中心に業務量は前年実績を確保できる見込み。



資料：経済産業省「特定サービス産業動態統計調査」

【10-12月期売上高】

前年同期比 7-9月期比



操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製品価格	受注残
100~90%	均衡	適正	横ばい	横ばい	—

人材派遣

製造業向けは低迷、医療や介護分野では需要が増加

【現況】



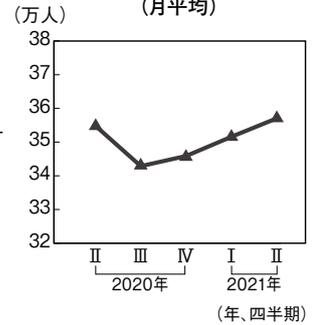
【見通し】



【7-9月期】県内の派遣社員の実稼働者総数は、前年をやや上回る水準で推移した模様。製造業では、メーカーの生産調整の影響から自動車関連で低調に推移したが、倉庫業や新型コロナのワクチン接種の受付事務などで派遣スタッフの需要が増加した。

【10-12月期】県内の派遣社員の実稼働者総数は、前年をやや上回る水準で推移する見通し。製造業の派遣需要は引き続き低迷すると予想されるが、医療や介護分野では慢性的な人手不足から需要が増加すると見込まれる。専門性の高いIT系や事務などの派遣ニーズも一定数あるとみられる。

全国 派遣社員の実稼働者数 (月平均)



資料：(一社)日本人材派遣協会

【10-12月期売上高】

前年同期比 7-9月期比



操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製品価格	受注残
79~70%	供給超過	—	横ばい	横ばい	—

観光・レジャー

G o T o再開が決まらず、観光客の回復は11月から

【現況】



【見通し】



【7-9月期】県内主要旅館の総売上高は、前年を▲4割ほど下回った模様。G o T o トラベルで宿泊需要が急回復した前年に比べて、今年は緊急事態宣言やまん延防止等重点措置で主要市場である首都圏を中心に外出を自粛した人が多く、観光需要は盛り上がりには欠けた。

【10-12月期】県内主要旅館の売上高は、前年を下回る見通し。昨年はG o T o トラベルで宿泊客を伸ばしたが、今年は10月中旬時点で再開時期が決まらず、観光客数の押し上げは11月以降になる模様。9月下旬の感染者減少を受けて秋イベントの開催規模拡大を模索する動きもあるが、スタッフ確保が課題になりそう。

県内 宿泊者数 (前年比)



資料：観光庁

【10-12月期売上高】

前年同期比 7-9月期比



操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製品価格	受注残
—	供給超過	—	上昇	横ばい	—

外食

売上高は、需要喚起策が実施された前年実績に届かない見通し

【現況】



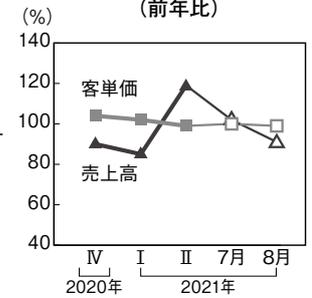
【見通し】



【7-9月期】主要外食店の売上高は、前年を大幅に下回った模様。緊急事態宣言の再発出による営業時間の短縮要請を受けて、居酒屋を中心に休業する飲食店が相次いだ。一方、ファストフード店のほか、寿司店やピザ店を中心にテイクアウトや宅配は堅調だった。

【10-12月期】主要外食店の売上高は、前年を下回る見通し。緊急事態宣言の解除で、売上高、来客数は前期から回復すると見込まれるものの、G o T o イートなどの需要喚起策が実施された前年実績には届かないとみられる。個人需要が回復する一方、忘年会などの法人需要は低迷が続くと予想される。

全国 外食売上高・客単価 (前年比)



資料：(一社)日本フードサービス協会

【10-12月期売上高】

前年同期比 7-9月期比



操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製品価格	受注残
—	供給超過	—	上昇	横ばい	—

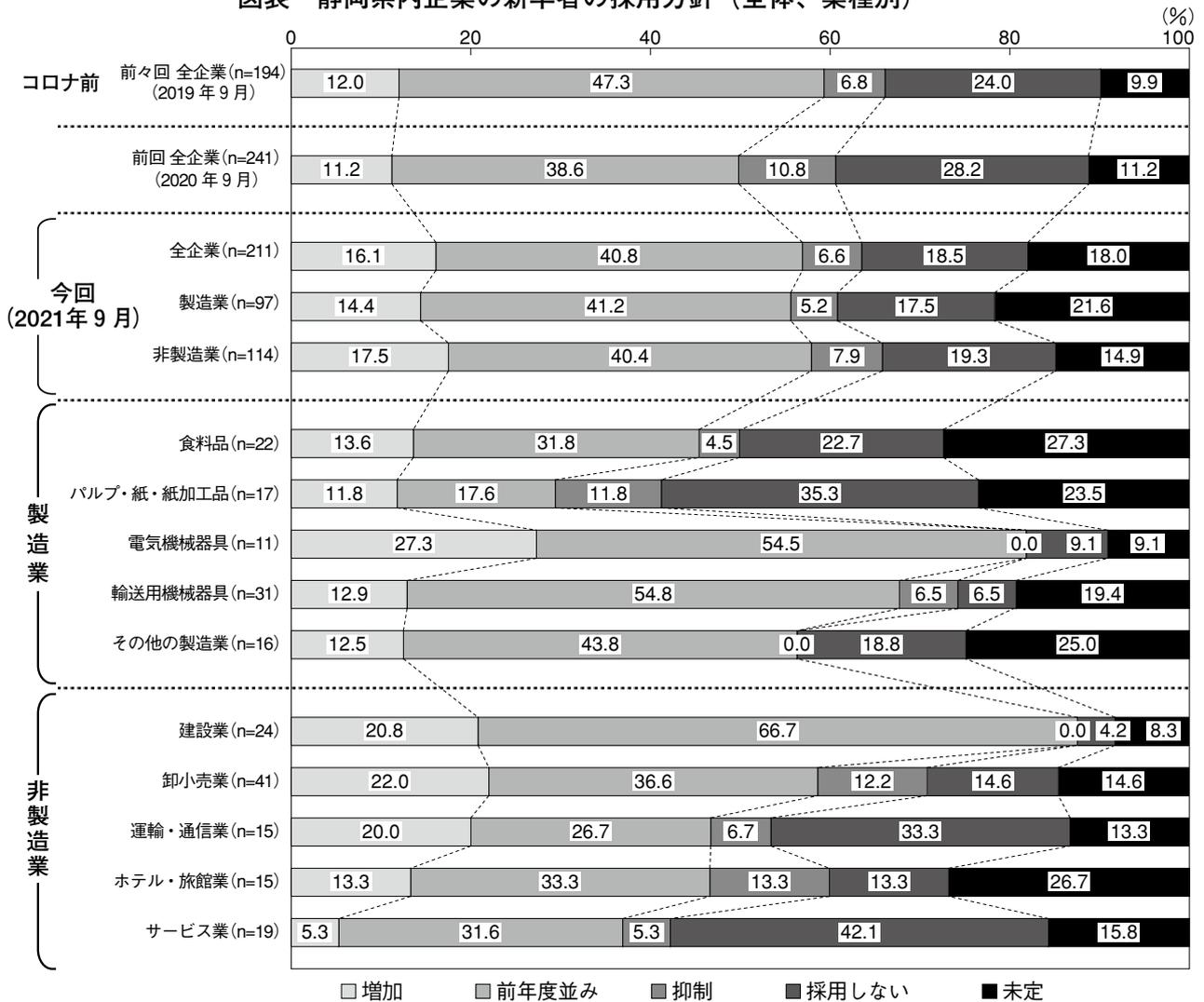
特別調査

新卒者の採用方針は改善傾向だが、業種により大きな格差

県内企業に2022年度の新卒者の採用方針を尋ねたところ、21年度より「増加」させる企業は16.1%と、コロナ禍に見舞われた前年(11.2%)を+4.9ポイント上回った一方、「抑制」(6.6%)が前年(10.8%)より▲4.2ポイント減少、「採用しない」(18.5%)も前年(28.2%)を▲9.7ポイント下回るなど、改善に転じた(図表)。ただし、「未定」(18.0%)との回答が、前年比で+6.8ポイント、コロナ前の前々年比で+8.1ポイント拡大しており、外部環境の変化が激しい中で判断に迷う企業も少なくない。

業種別にみると、製造業では、“電気機械器具”で「増加」と「前年度並み」を合わせると8割を超えるなど採用意欲が強い一方、“パルプ・紙・紙加工品”では「採用しない」との回答が3割を超えた。非製造業では、“建設業”で「増加」と「前年度並み」が合わせて9割近くに達した一方、“サービス業”で「採用しない」との回答が4割を超えるなど、業種により差が生じている。

図表 静岡県内企業の新卒者の採用方針(全体、業種別)



調査要領：調査時点2021年9月、調査対象企業579社、回答社数211社、有効回答率36.4%